

学習指導要領改訂への対応は

篠宮 正明 (自民クラブ)



2020年度から順次実施される学習指導要領改訂に向けた対応が必要と考えるが、具体的な取り組みは、

小・中学校における英語の教科化と外国語活動の導入に向け、検討委員会を設置し、段階的な導入の計画を検討した。来年度から、この計画に基づき一部先取りして実施する予定である。

小・中学校の道徳の教科化については、今年度から、考え議論する道徳の授業を実施している。新しい時代に求められる資質・能力を育成するため、授業の工夫・改善を重ねてまいりたい。

職員は、市の発展のために大切なことである。人事管理と人材育成の取り組みを伺う。

今年度より人事評価を本格実施した。職員の主体的な職務の遂行および高い能力を持った公務員の育成を図るとともに、能力と実績に基づく人事管理を行う。

安全対策の充実を！

島崎 清一 (自民クラブ)



浅間町と学園町を結ぶ西武池袋線の踏切は、幅員が29メートルと狭い。相互交通であり、車両・自転車・歩行者が利用する。踏切道の幅員と安全対策について伺う。

対策が求められているとの認識はあるが、鉄道事業者における踏切対策は、立体交差化や踏切の集約などを基本に行う方針とのことである。道路幅員による踏切の改良費用は、全額市が負担することになり、現状として踏切道の幅員は難しい。国や都の動向を注視し、必要に応じて鉄道事業者や交通管理者等と調整を行うなど、安全対策を講じていきたい。

黒目川の新宮前通りから所沢街道までの区間では、護岸が老朽化している部分もあり、早急な対応が求められる。河川の整備について伺う。

現地の状況を確認した上で、必要に応じた部分補修などを行っていく。

安全・安心のまちづくりを！

津田 忠広 (公明党)



都市計画道路東3・4・5号線について、①工事の進捗状況は、②第十小の通学路を横切するため、安全対策が重要であるが、保護者との調整等は、

黒目川を架橋する橋梁の橋台部分が、正規の位置に収まっていないことが判明し、橋梁工事を中断している。将来管理者である東京都に報告し、対応策の調整を行っている。③関係部署との連携を図りながら、学校・保護者とともに通学路の点検、変更の検討を行い、安全対策を取っていく。

平成19年第1回定例会で採択された、19陳情第5号 新小金井街道(下里二丁目14番地) 信号機設置を求める陳情について、現況は、

平成19年より田無警察署に継続して要望している。改めて確認したところ、公安委員会に上申しているが、歩行者等が比較的少なく利用状況を注視していきたいとのことであった。

行革の成果を新しい施策に

沢田 孝康 (公明党)



軽度発達障害の早期発見に有効な5歳児健康診査の検討をすべきと考えるが市の見解は、

5歳児健診を実施するためには、専門医または熟練した小児科医が必要。小児科医の少ない中で健診を行う体制づくりは、現状困難である。

では、5歳児健康相談の実施は、医師会、関係機関等と検討する。

29年度予算、歳入は税連動交付金が約4億円減、地方交付税も約1億円減。その結果、財政調整基金約12億円の繰り入れ、臨時財政対策債も約17億円の繰り入れ。現状、財政健全経営計画(実行プラン)の取り組みは、

プランに掲げた各項目を着実に実行、組織全体の改革・改善に向けた意識の醸成を図り、持続可能な行財政運営につなげていけるよう取り組む。市は財政が厳しいと思いませんか。厳しい財政状況と認識する。

一般質問



本会議の進行を務める細谷祥子議長

教育委員会は市民との意見交換を！

永田 雅子 (日本共産党)



通学路の安全対策について、とりわけ宝泉寺通りは歩道も狭く、見通しが悪い危険な状況である。新アケセ入道路の建設に伴い、大型車両等が増える予想されるが、取り組みを伺う。

道路管理者、警察署、学校、保護者と連携して通学路点検を行っている。神宝小学校については、新たな道路を通学路に指定し、対応している。引き続き見守り強化等、新一年生を迎える安全対策に取り組んでいきたい。

中央図書館の運営について、方針決定に当たりパブリックコメント等市民の意見を反映したとされているが、指定管理者制度導入への圧倒的多数の反対意見が反映されていない。市民との意見交換の場の設定を求めるが、

いただいた市民意見の内容について検討・議論を行い、運営方針を決定した。方針に沿って準備を進めていく。意見交換をする予定はない。

たての緑道の安全対策について

三浦 猛 (公明党)



夜はとも暗く、大人でも怖いほどである。たての緑道も含めた、公園灯LED化の実施時期を伺う。

街灯のLED化を行っているESCO事業者と随意契約を結び、29年度末(平成30年3月)完了を目途に進めてまいりたい。

たての緑道では、最近も不審者が多いと聞く。例えば「警察官立寄り所」となるような、「駆け込みボックス」や「通学路安全ボックス」等を設置し、登下校時のパトロール強化を図れないか。

田無警察署に確認したところ、パトロールの強化は可能であるが、1つの場所に職員を固定するのは難しいとのこと。

では、パトロール強化をお願いしたい。また、夜間通行中に、車両侵入防止柵にぶつかる方が多いので、反射テープ等の設置を要望したい。

保育ニーズと確保策見直しを

梶井 琢太 (市議会民進党)



①保育園の待機児解消に関し、新規申込数の推移は、②学童保育で、入所申請者数が昨年度より低学年で46名増加する中、29年度夏の長期休暇までの整備箇所は、

29年度4月入所申請状況(速報値)では78名で、前年度より52名多い状況。②低学年の待機児童が多い学童保育所を優先し決定。

保育等のニーズと確保策とのギャップに関し、国通知で子ども子育て支援事業計画の中間見直しに係る必要性の条件が示された。当市の状況は、

保育ニーズは計画上下下する見込みも申込数は増加、確保策も計画と大幅に乖離。学童も計画と乖離し、さらに整備が必要となる可能性も。国通知に該当するなら中間見直しをすべき。他団体の状況等も確認し検討する。学童も待機児童数等を注視し検討する。

財政肥大化に危機感

富田 竜馬 (市議会民進党)



並木市長就任から、経常経費が約30億円増加していることについて、29年度予算では、市の貯金である財政調整基金を12億円も投入せざるを得ない状況。「未来への投資」と称して財政肥大化していないか。

子育て支援に政策的に配分しないと人口減少等に歯止めがかからない。未来への投資として意義がある。

公共施設包括管理委託を導入し、経費削減につなげるべき。

近隣市においても取り組みが進められているので、調査研究していく。

特殊詐欺対策電話貸与について、被害対策として自動通話録音機は効果的だが、希望者だけでなく、警察と連携し、必要とされる方にピンポイントで貸与する方も検討すべき。高齢世帯希望者への貸与と、警察と連携して貸与する2パターンを考えている。

改革しない並木市長に夢と希望を語る資格なし

宮川 豊史 (久留米ハートネット)



今議会の初日、並木市政になって初めて議案が否決された。他人に責任を押し付けて不平不満を言うのか、それとも謙虚に議会と向き合い議論するのか。そこに市長の資質が問われる。私の言う改革とは、歳出削減を伴う改革。市長の考えとは大きなズレがある。並木市長になってから歳出が増えた。このまま歳出増加を抑えられなければ、財政が破綻するのは明らか。一般会計予算総額42億円。さらに財政調整基金12億円投入。これで行財政改革を徹底したと言えるのか。

確かに歳出を増やしているが、歳入と歳出のバランスを守るだけでは将来への投資はできない。

予算編成方針で示した事務事業のゼロベースからの見直しも、スクラップ・アンド・ビルドも、何も取り組んでいない。市長は確認したのか。

予算編成方針通りと思っている。市長 確認したのか。

生活保護 都指導勧告受け改善は

桜木 善生 (社民党)



東京都の生活保護事務指導検査の勧告事項に、一年以上訪問調査を実施していない事例が見られたとあるが、28年度訪問していない世帯は、

29年1月末現在1661世帯のうち32世帯、32%程度となっている。

勧告事項に対する改善報告書によれば、原因である職員不足を担当部署のみで改善することは難しく、実施体制の充実が人事担当部署において引き続き検討していくとあるが、見解は、

副市長 職員に負担をかけていることは承知している。一定の改善は図ったが、今後も調査・訪問しやすい職場の環境づくりが求められていると考える。

公園整備は公園施設長寿命化計画に基づき行つた施設方針で述べているが、白山公園は、施設整備を行った際の湧水の関係、地盤の高さ調節など、問題を解消した上での対応が必要である。